

2026年7月23日

株式会社日本政策金融公庫

## 第229回 信用保証利用企業動向調査結果の概要

(2026年4～6月期実績、2026年7～9月期見通し)

[概況] 信用保証利用企業の資金繰りは、悪化している。

～景況は、弱い動きが見られ、先行きは依然として慎重な見方～

【金融関連】○ 資金繰りD.I.は、▲14.0(▲8.9)とマイナス幅が拡大した。

( )は前期値

○ 借入難易感D.I.は、▲7.2(▲7.2)と横ばいとなった。

○ 今期に借入を実施した企業の割合は、従業員規模「0-20人」及び「21人以上」とともに、やや減少した。

【保証利用】○ 今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、やや減少した。

○ 来期(2026年7～9月)における保証利用要請D.I.は、1.9(2.7)と横ばいとなった。

※ 保証利用要請D.I. …金融機関による保証利用要請が「強くなると思う」企業の割合－「弱くなると思う」企業の割合。

【生産等】○ 生産・売上D.I.は、▲7.0(▲4.0)とマイナス幅がやや拡大した。

○ 採算D.I.は、▲16.3(▲10.2)とマイナス幅が拡大した。

【特別調査】「経営環境において直面している課題等について」

○ 経営環境において直面している課題については、「人手不足、人件費上昇」が57.2%と最も多くなっている。

○ 価格転嫁の状況については、価格転嫁が「出来ている」企業は73.7%、「出来ていない」企業は26.3%となった。

○ 価格転嫁が「出来ている」理由については、「価格の引き上げについて、顧客の理解が得られている」(76.0%)が最も多く、価格転嫁が「出来ていない」理由については、「取引先や顧客が離れてしまうおそれがある」(52.8%)が最も多くなっている。

<調査の要領>

調査時点 2027年6月中旬

調査方法 郵送またはWebによるアンケート調査

調査対象 9地域(北海道、宮城、東京、愛知、石川、大阪、広島、香川、福岡)の信用保証協会利用先  
16,000企業を対象としており、回答企業の約85%が従業員20人以下の小規模企業となっています。

有効回答企業数 4,777企業(回答率 29.9%)

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 中小企業事業本部 保険企画部 保険情報室 Tel: 03-3270-2384(担当: 平川、大羽、橋本)

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

資料編につきましては[こちら](#)をご覧ください。

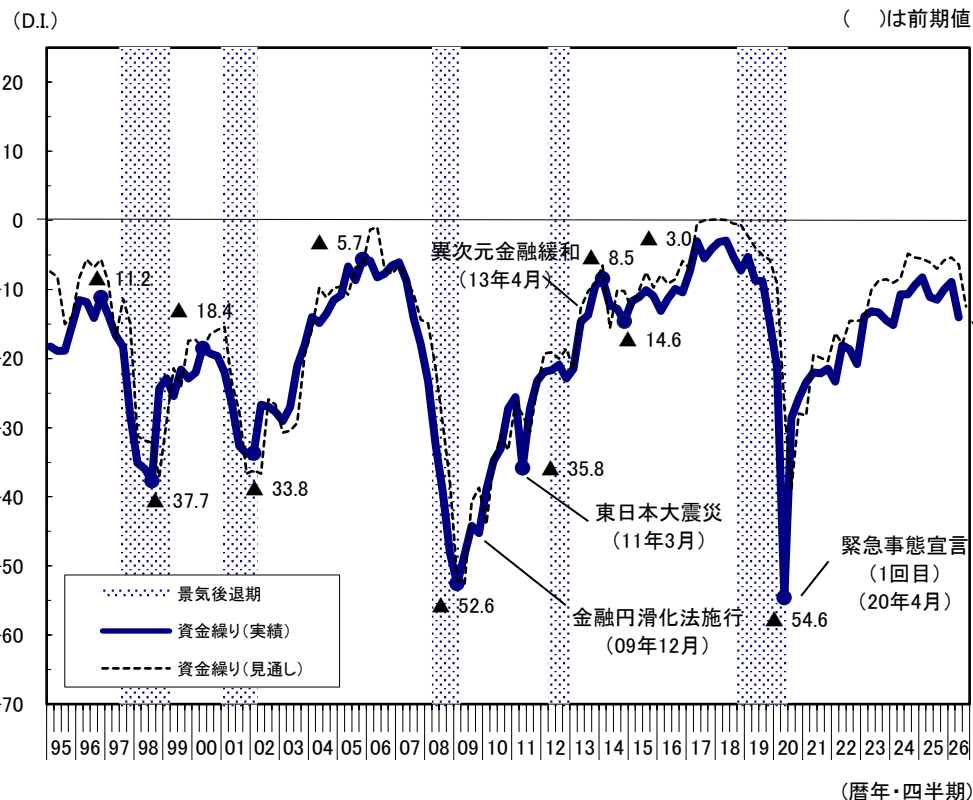
## (1) 資金繰り

・資金繰りD.I.は、▲14.0とマイナス幅が拡大した。  
来期の見通しについては、▲12.4となっている。

|          |     | 2025/4-6 | 7-9   | 10-12 | 2026/1-3 | 4-6   | 7-9   |
|----------|-----|----------|-------|-------|----------|-------|-------|
| 資金繰りD.I. | 実績  | ▲11.1    | ▲11.5 | ▲10.0 | ▲8.9     | ▲14.0 |       |
|          | 見通し | ▲6.1     | ▲7.0  | ▲5.8  | ▲5.3     | ▲6.4  | ▲12.4 |

(注) 前期比。資金繰りD.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。

### 資金繰りD.I.(季節調整値)の推移



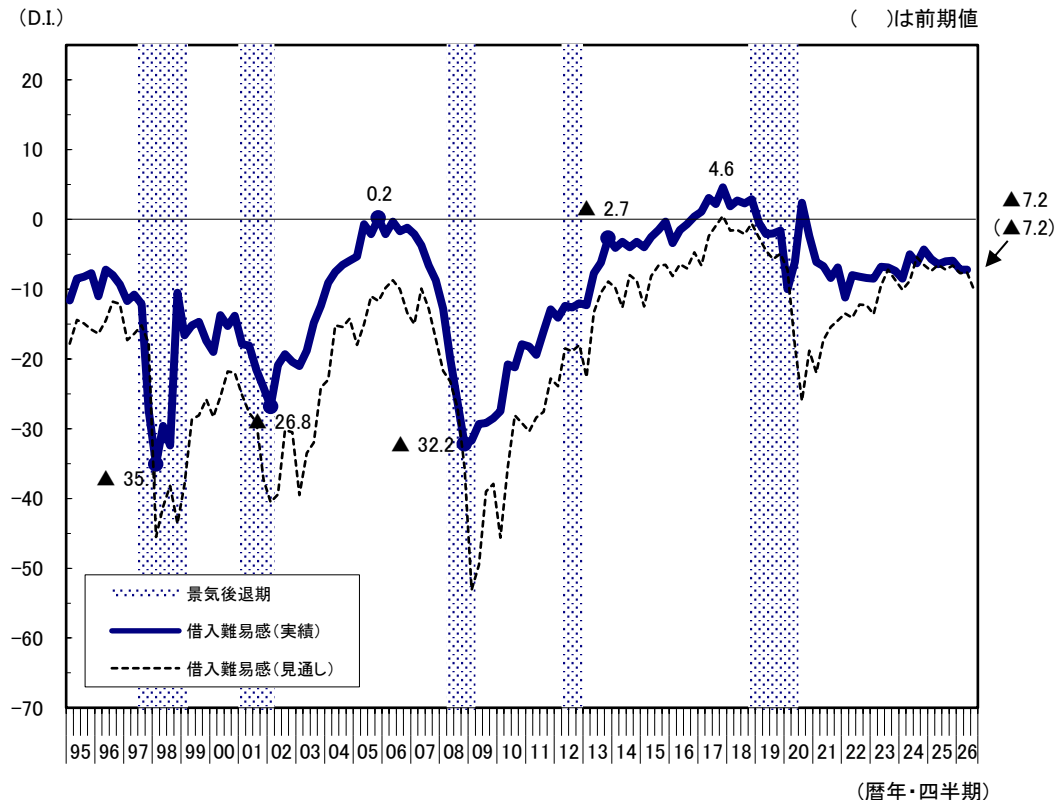
## (2) 借入難易感

・借入難易感D.I.は、▲7.2と横ばいとなった。  
来期の見通しについては、▲10.2となっている。

|           |     | 2025/4-6 | 7-9  | 10-12 | 2026/1-3 | 4-6  | 7-9   |
|-----------|-----|----------|------|-------|----------|------|-------|
| 借入難易感D.I. | 実績  | ▲6.4     | ▲6.0 | ▲5.9  | ▲7.2     | ▲7.2 |       |
|           | 見通し | ▲6.5     | ▲7.2 | ▲6.6  | ▲7.7     | ▲7.6 | ▲10.2 |

(注) 前期比。借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

### 借入難易感D.I.の推移



### (3) 借入状況

・今期に借入を実施した企業の割合は、従業員規模「0-20人」及び「21人以上」とともに、やや減少した。

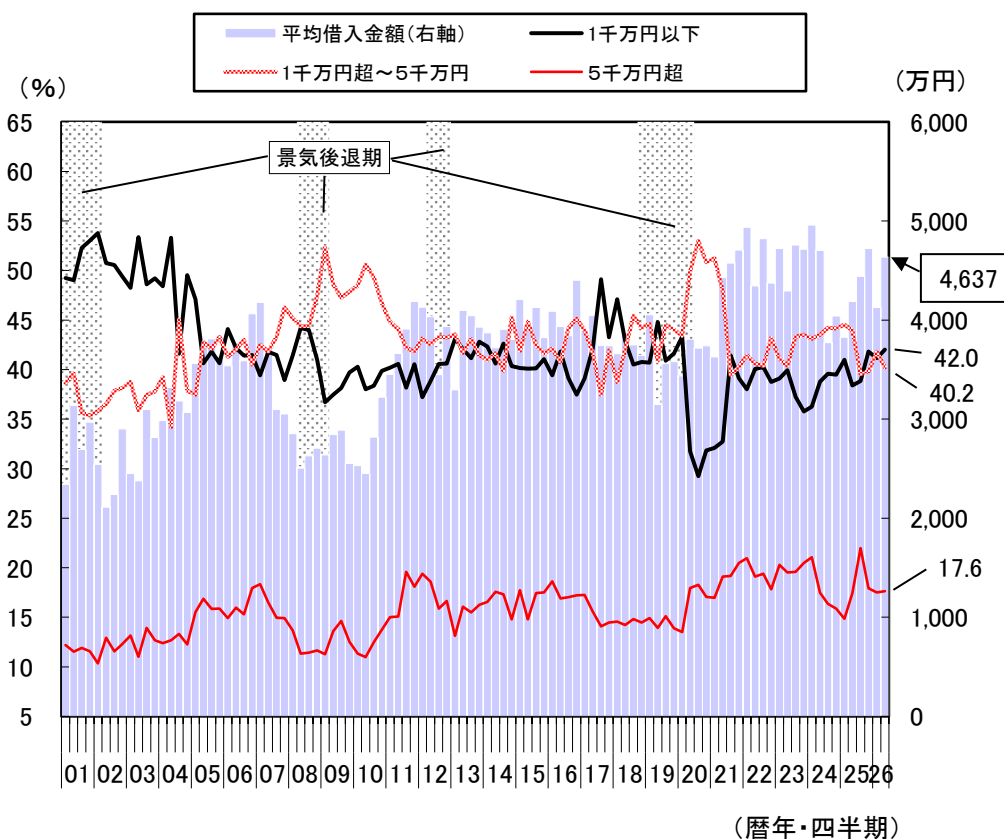
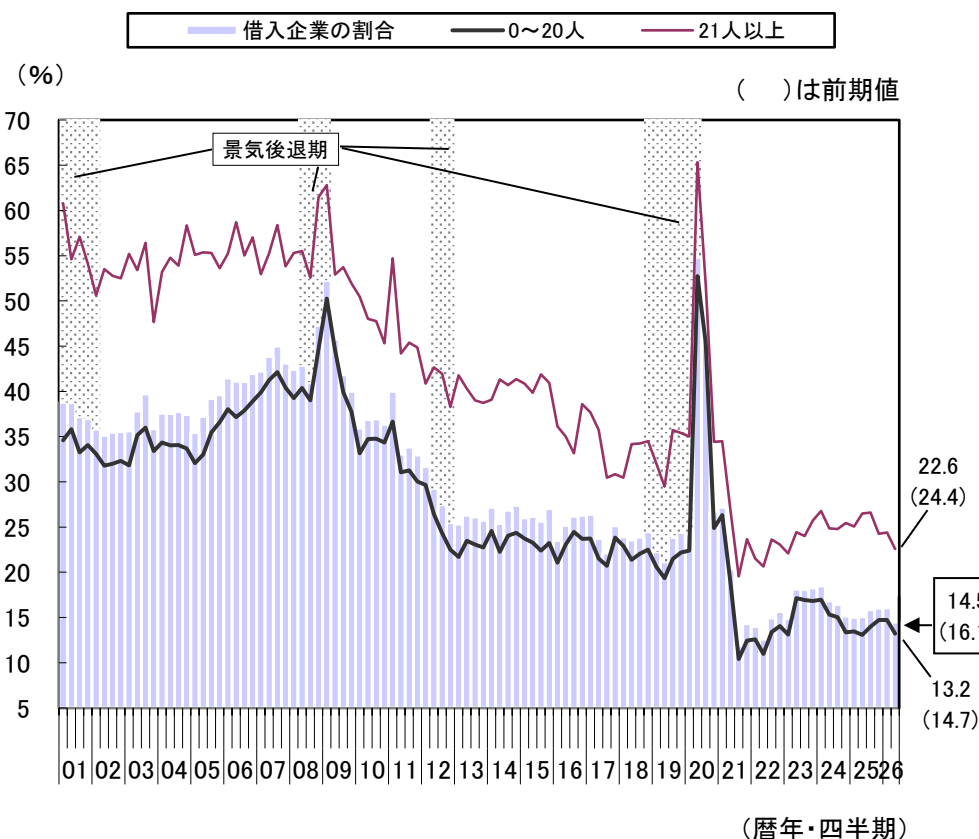
① 借入を実施した企業の割合(季節調整値)

|         | 2025/4-6 | 7-9  | 10-12 | 2026/1-3 | 4-6  |
|---------|----------|------|-------|----------|------|
| 借入企業の割合 | 15.1     | 15.8 | 16.0  | 16.1     | 14.5 |
| 0-20人   | 13.1     | 14.0 | 14.7  | 14.7     | 13.2 |
| 21人以上   | 26.5     | 26.6 | 24.3  | 24.4     | 22.6 |

・一社あたりの借入金額別構成比は、「1千万円以下」及び「5千万円超」が横ばい一方で、「1千万円超～5千万円」がやや減少した。

② 一社あたりの借入金額別構成比(季節調整値)

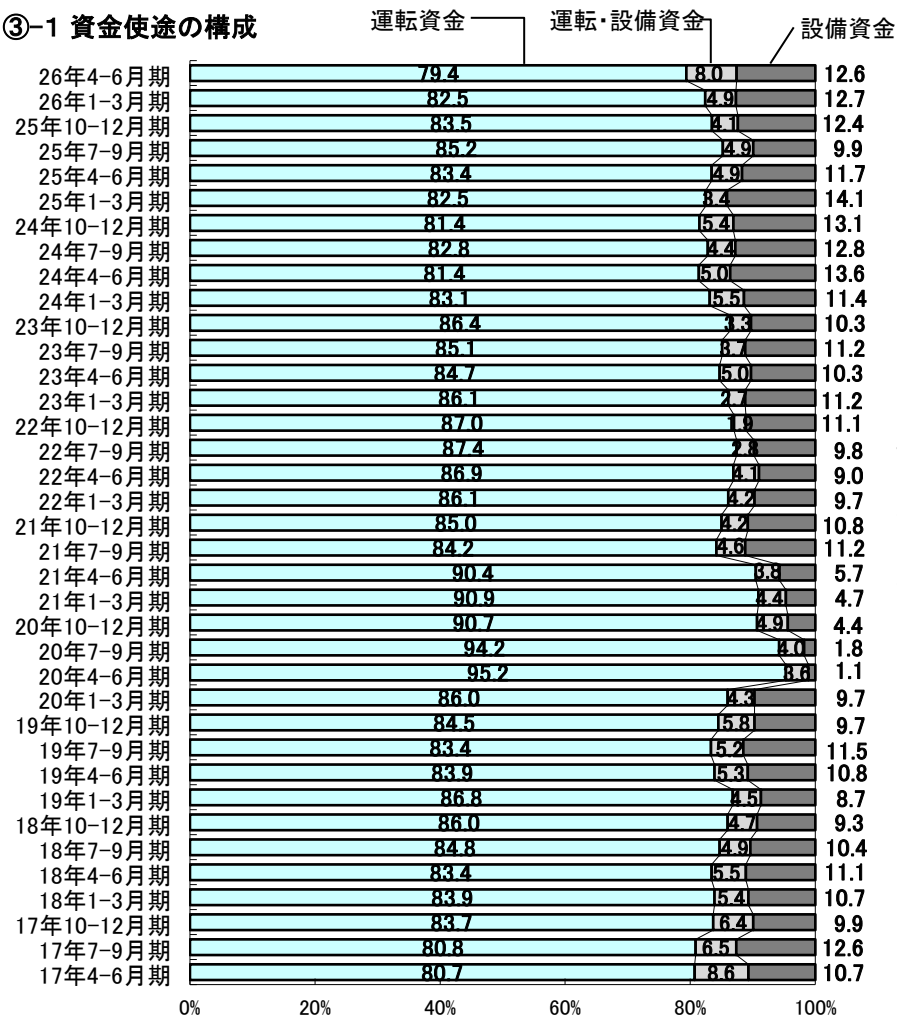
|            | 2025/4-6 | 7-9  | 10-12 | 2026/1-3 | 4-6  |
|------------|----------|------|-------|----------|------|
| 1千万円以下     | 38.4     | 38.8 | 41.8  | 41.1     | 42.0 |
| 1千万円超～5千万円 | 44.0     | 39.5 | 39.8  | 41.8     | 40.2 |
| 5千万円超      | 17.4     | 22.0 | 17.9  | 17.5     | 17.6 |



(注)「借入」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計したものである。

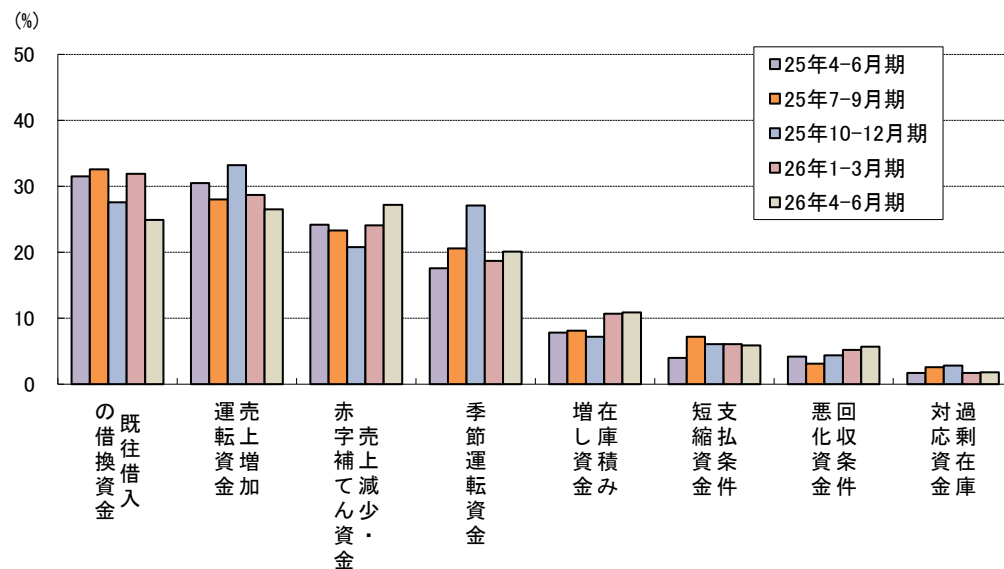
- ・資金使途の構成については、運転資金の割合はやや減少し、設備資金の割合は横ばいとなった一方、運転資金および設備資金の両方を借入れた企業(「運転・設備資金」)の割合はやや増加となった。
- ・運転資金の内訳では、「売上減少・赤字補てん資金」の割合がやや増加し、最も高い割合となった。

### ③-1 資金使途の構成



### ③-2 運転資金の内訳 (原数値)

|     |         | 既往借入<br>の借換資金 | 売上増加<br>運転資金 | 売上減少・<br>赤字補てん資金 | 季節運転資金 | 在庫積み<br>増し資金 | 支払条件<br>短縮資金 | 回収条件<br>悪化資金 | 過剰在庫<br>対応資金 |
|-----|---------|---------------|--------------|------------------|--------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 26年 | 4-6月期   | 24.9          | 26.5         | 27.2             | 20.1   | 10.9         | 5.9          | 5.7          | 1.8          |
|     | 1-3月期   | 31.9          | 28.7         | 24.1             | 18.7   | 10.7         | 6.1          | 5.2          | 1.7          |
| 25年 | 10-12月期 | 27.6          | 33.2         | 20.8             | 27.1   | 7.2          | 6.1          | 4.4          | 2.8          |
|     | 7-9月期   | 32.6          | 28.0         | 23.3             | 20.6   | 8.1          | 7.2          | 3.1          | 2.6          |
|     | 4-6月期   | 31.5          | 30.5         | 24.2             | 17.6   | 7.8          | 4.0          | 4.2          | 1.7          |



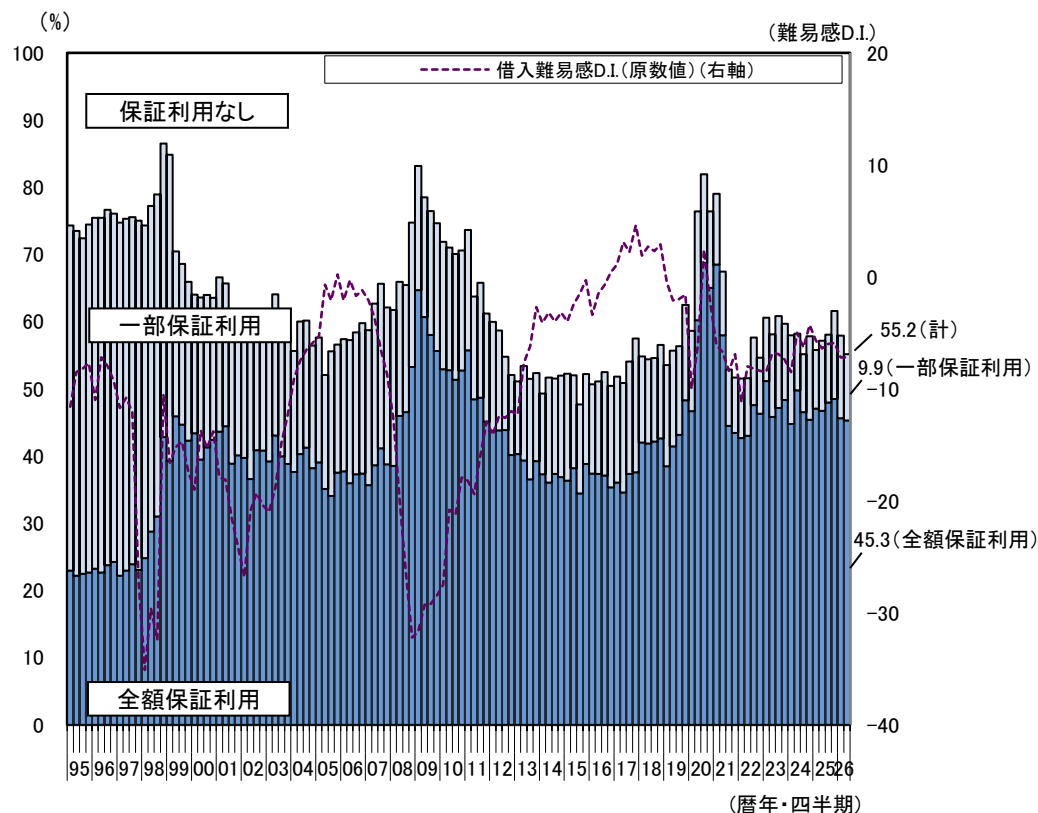
- (注) 1.複数回答のため、合計は100%を超える。  
2.「資金使途」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計した借入金に係るものである。

## (4) - 1 保証利用状況

- ・今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、やや減少した。

|                 | 2025/4-6 | 7-9  | 10-12 | 2026/1-3 | 4-6  |
|-----------------|----------|------|-------|----------|------|
| 当期に保証を利用した企業の割合 | 57.1     | 58.1 | 61.6  | 57.9     | 55.2 |
| 全額利用            | 46.7     | 48.0 | 48.5  | 45.6     | 45.3 |
| 一部利用            | 10.4     | 10.1 | 13.1  | 12.3     | 9.9  |
| 当期に保証利用がない企業の割合 | 42.9     | 41.9 | 38.4  | 42.1     | 44.8 |

借入企業に対する保証利用企業の割合(季節調整値)



(注)当該四半期中に新規借入を行った企業数について、「保証利用なし」、「保証付きの借入のみ(全額保証利用)」、「保証付きの借入と保証を利用しない借入を併用(一部保証利用)」の区分で集計したもの。

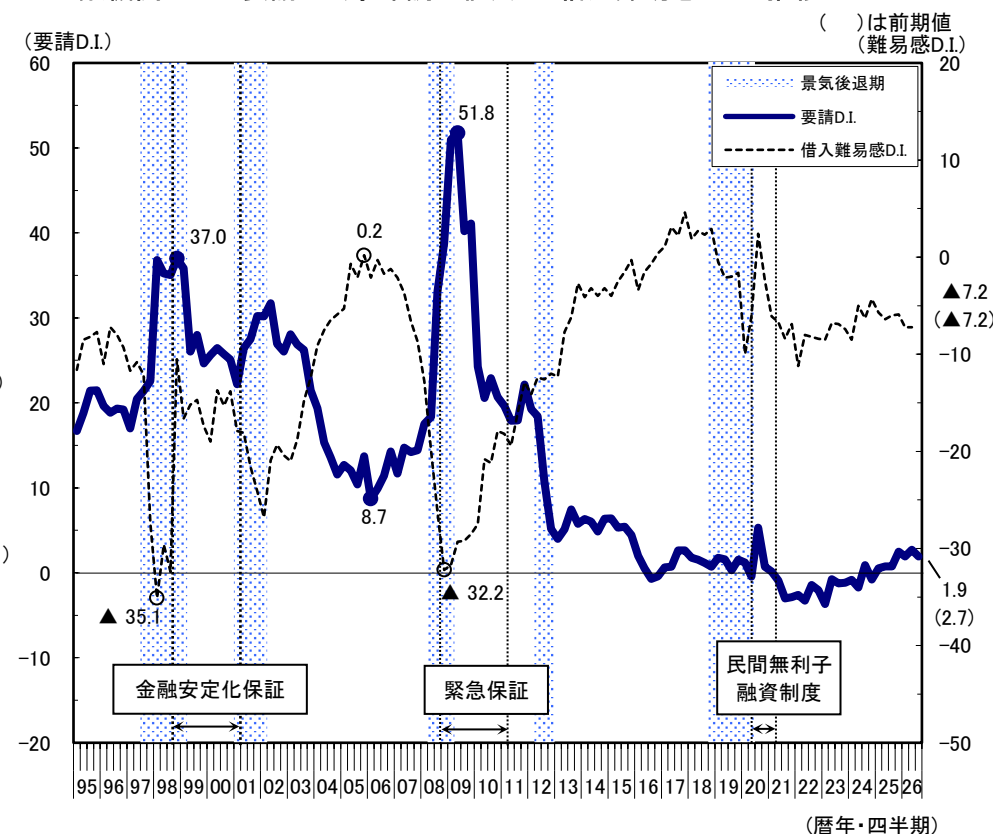
## (4) - 2 金融機関からの保証利用要請

- ・来期(26年7～9月)における保証利用要請D.I.は、1.9と横ばいになった。

|           | 2025/4-6 | 7-9   | 10-12 | 2026/1-3 | 4-6   | 7-9 |
|-----------|----------|-------|-------|----------|-------|-----|
| 要請D.I.    | 0.7      | 0.8   | 2.5   | 1.9      | 2.7   | 1.9 |
| 借入難易感D.I. | ▲ 6.4    | ▲ 6.0 | ▲ 5.9 | ▲ 7.2    | ▲ 7.2 |     |

(注) 1.前期比。要請D.I.は、「強くなると思う」企業の割合-「弱くなると思う」企業の割合。季節調整値。  
2.借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

金融機関からの要請D.I.(季節調整値)及び借入難易感D.I.の推移



## (5) 生産・売上

- ・生産・売上D.I.は、▲7.0とマイナス幅がやや拡大した。  
来期の見通しについては、▲1.3となっている。

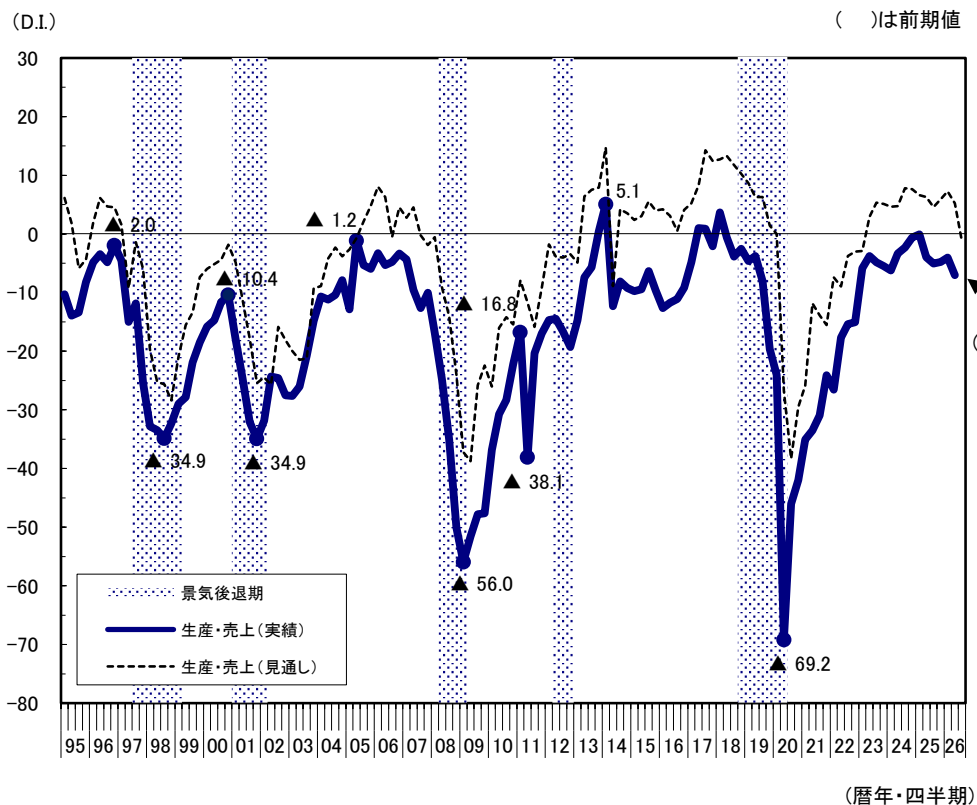
|           |     | 2025/4-6 | 7-9   | 10-12 | 2026/1-3 | 4-6   | 7-9   |
|-----------|-----|----------|-------|-------|----------|-------|-------|
| 生産・売上D.I. | 実績  | ▲ 4.0    | ▲ 5.0 | ▲ 4.8 | ▲ 4.0    | ▲ 7.0 |       |
|           | 見通し | 6.3      | 4.6   | 5.9   | 7.3      | 5.2   | ▲ 1.3 |

(注) 前期比。生産・売上D.I.は、「増加」企業の割合-「減少」企業の割合。季節調整値。

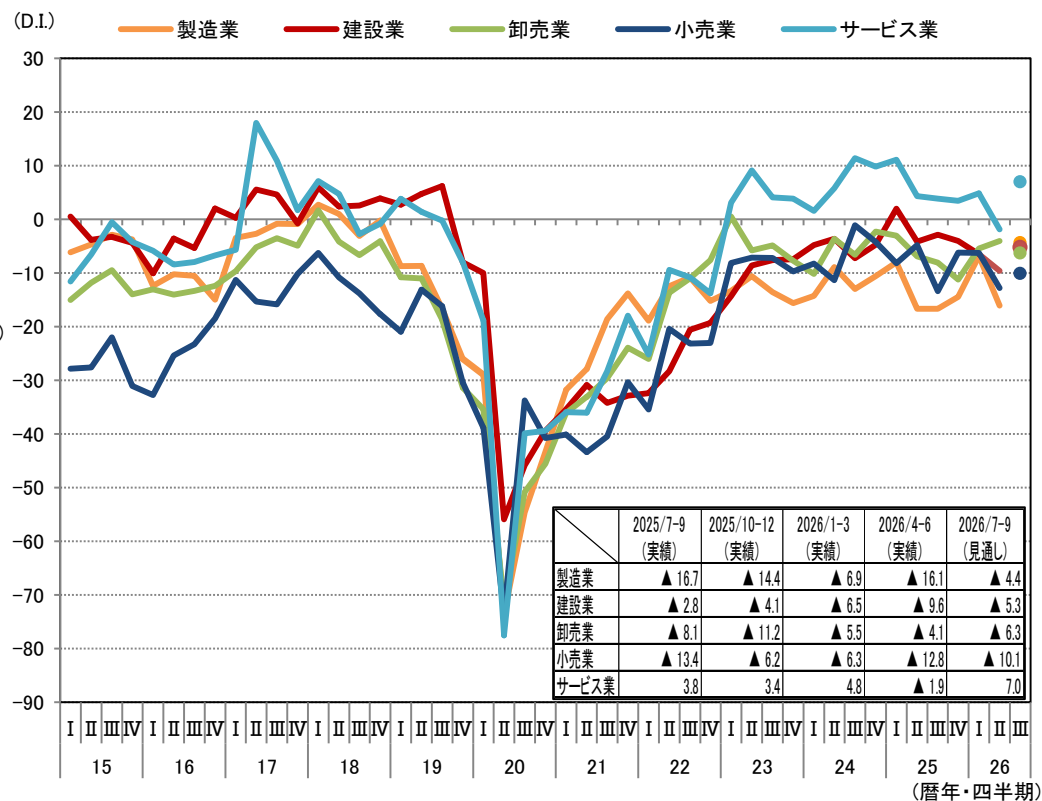
## 生産・売上(業種別)

- ・生産・売上D.I.(業種別)は、サービス業がマイナスに転じ、製造業及び小売業でマイナス幅が拡大、建設業でマイナス幅がやや拡大した一方、卸売業はマイナス幅がやや縮小した。

### 生産・売上D.I.(季節調整値)の推移



### 業種別生産・売上D.I.(季節調整値)の推移



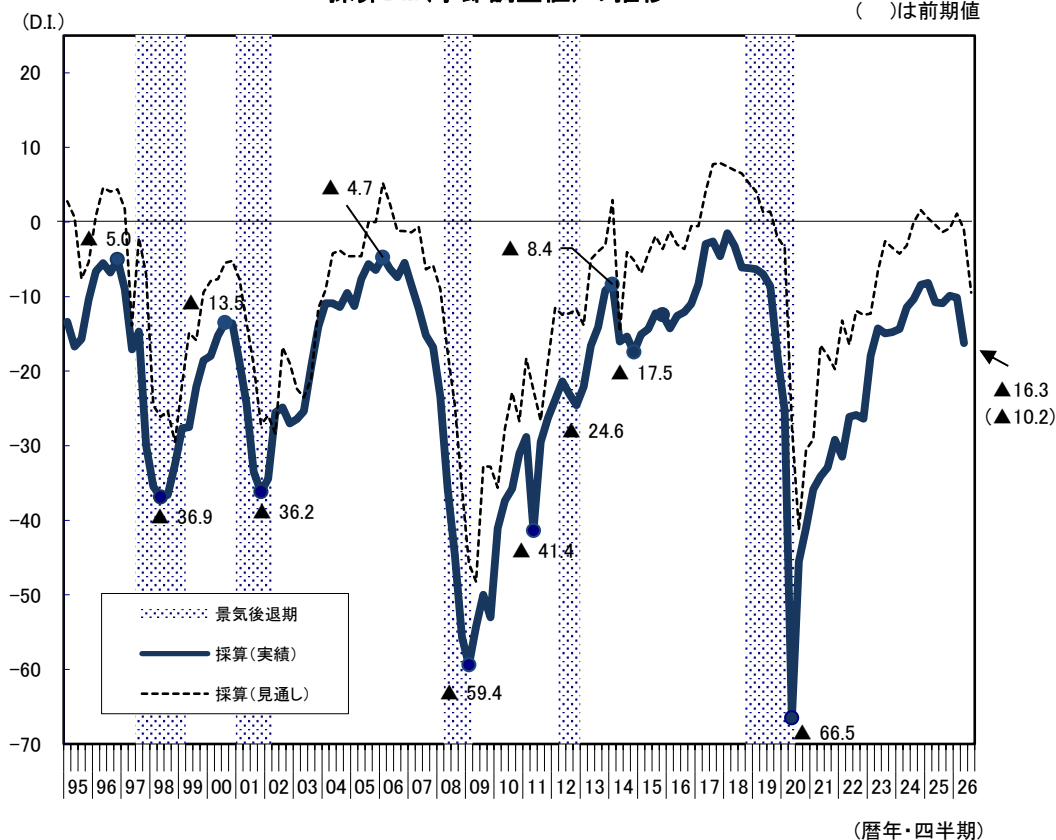
## (6) 採算

- ・採算D.I.は、▲16.3とマイナス幅が拡大した。  
来期の見通しについては、▲9.5となっている。

|        |     | 2025/4-6 | 7-9   | 10-12 | 2026/1-3 | 4-6   | 7-9  |
|--------|-----|----------|-------|-------|----------|-------|------|
| 採算D.I. | 実績  | ▲10.8    | ▲10.9 | ▲9.9  | ▲10.2    | ▲16.3 |      |
|        | 見通し | ▲0.4     | ▲1.3  | ▲0.8  | 1.1      | ▲0.9  | ▲9.5 |

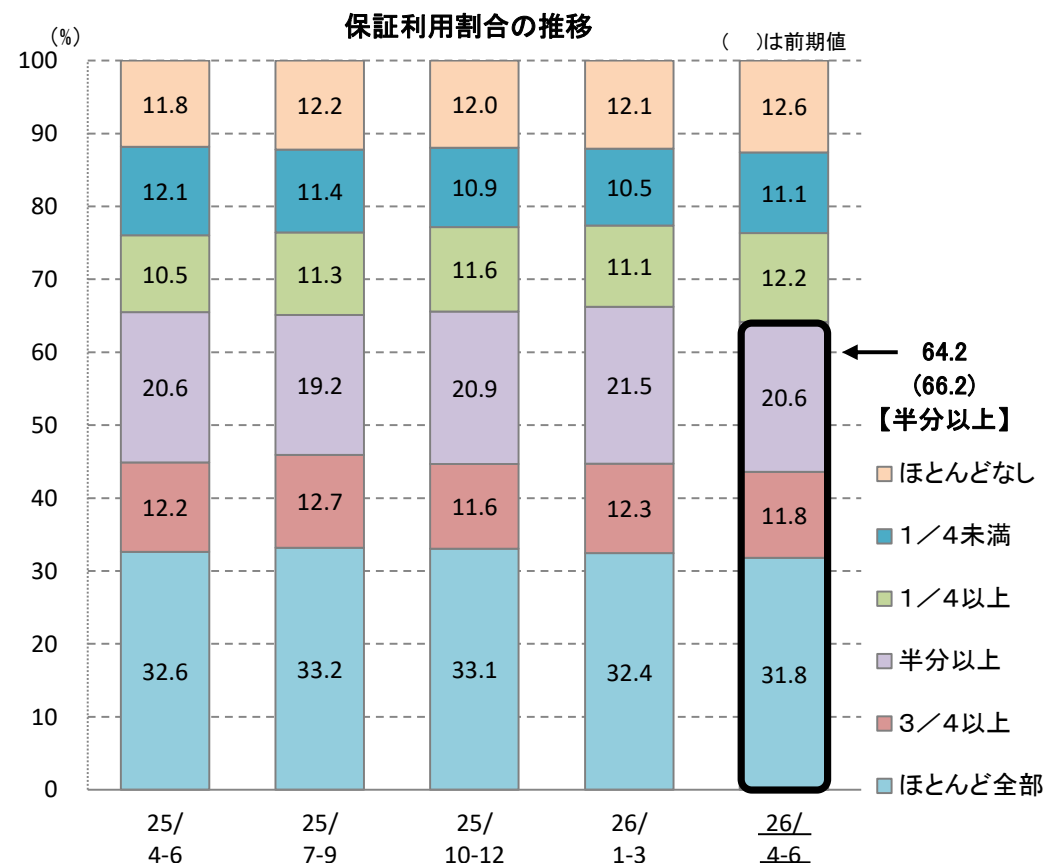
(注) 前期比。採算D.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。

採算D.I.(季節調整値)の推移



## (参考) 保証利用割合

- ・借入総残高に占める保証利用の割合については、半分以上と回答した企業が64.2%となっている。

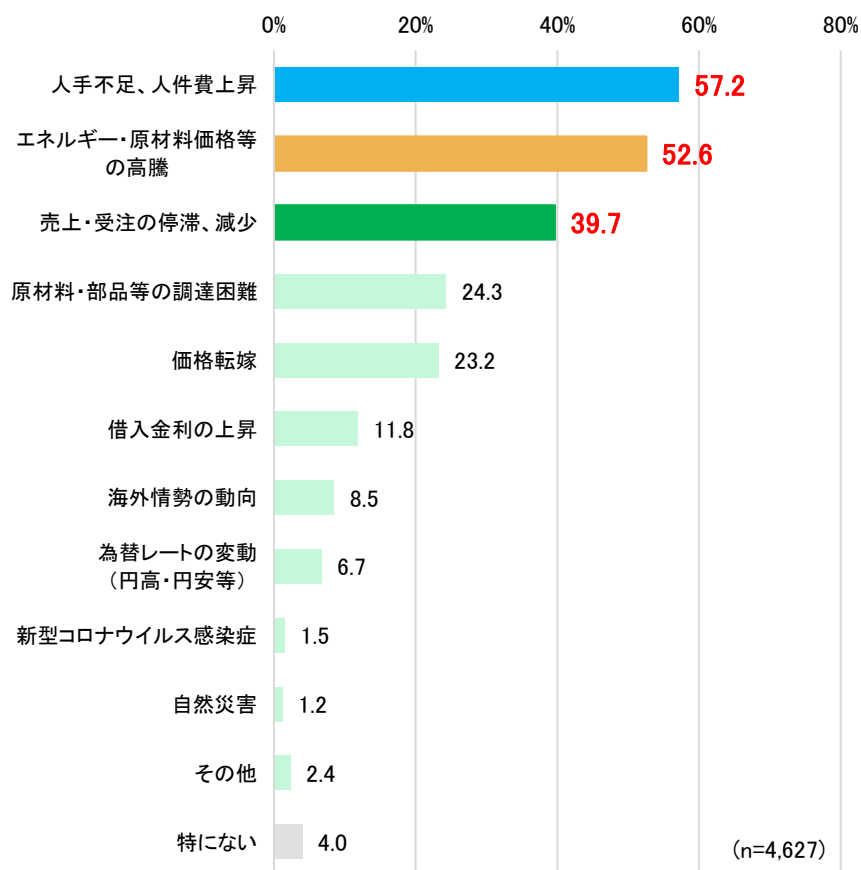


## 特別調査 経営環境において直面している課題等について

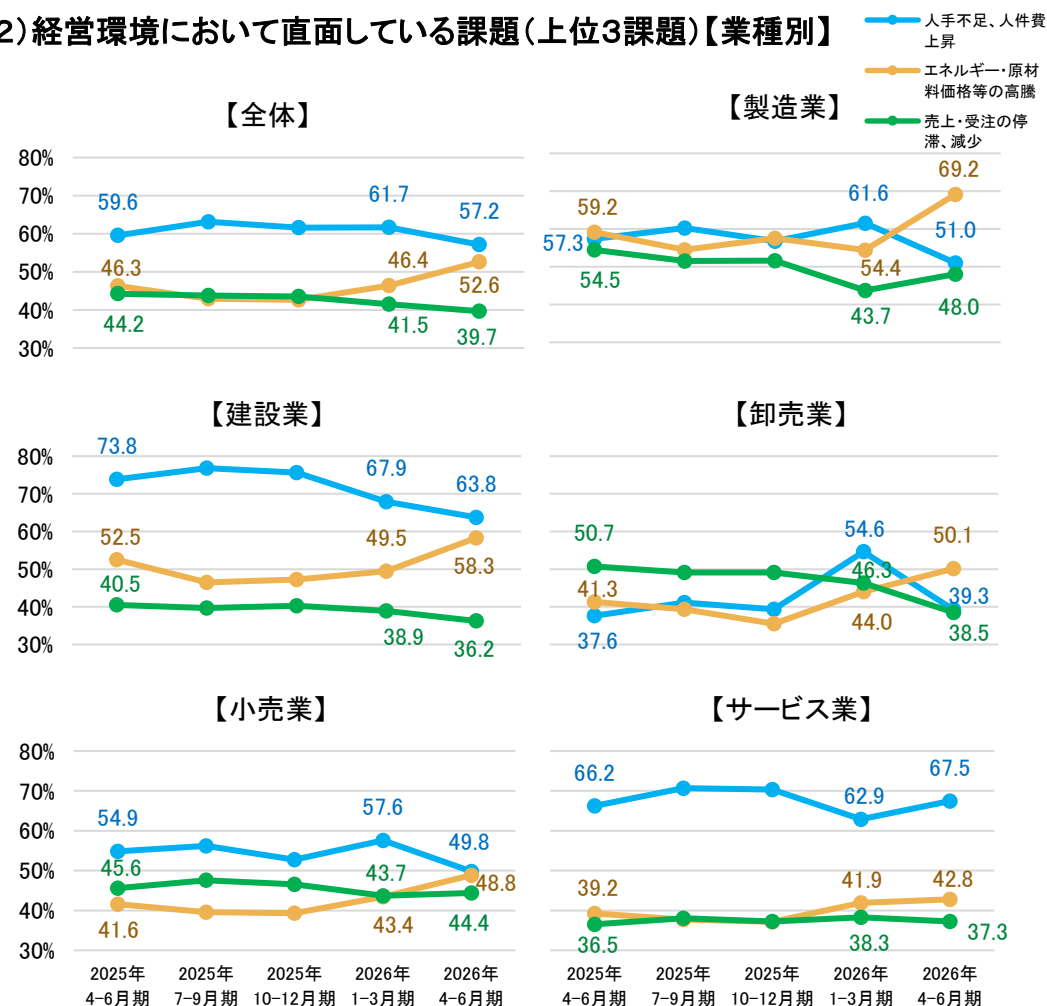
### 1. 経営環境において直面している課題について

- ・2026年4-6月期の経営環境において直面している課題については、「人手不足、人件費上昇」(57.2%)が最も多く、次いで「エネルギー・原材料価格等の高騰」(52.6%)、「売上・受注の停滞、減少」(39.7%)の順となっている。
- ・業種別にみると、いずれの業種も「エネルギー・原材料価格等の高騰」が上昇している。また、製造業および卸売業においては「エネルギー・原材料価格等の高騰」が「人手不足、人件費上昇」を上回った。

#### (1) 経営環境において直面している課題



#### (2) 経営環境において直面している課題(上位3課題)【業種別】



(注) (1)、(2)は3つまでの回答可のため、合計は100%を超える。

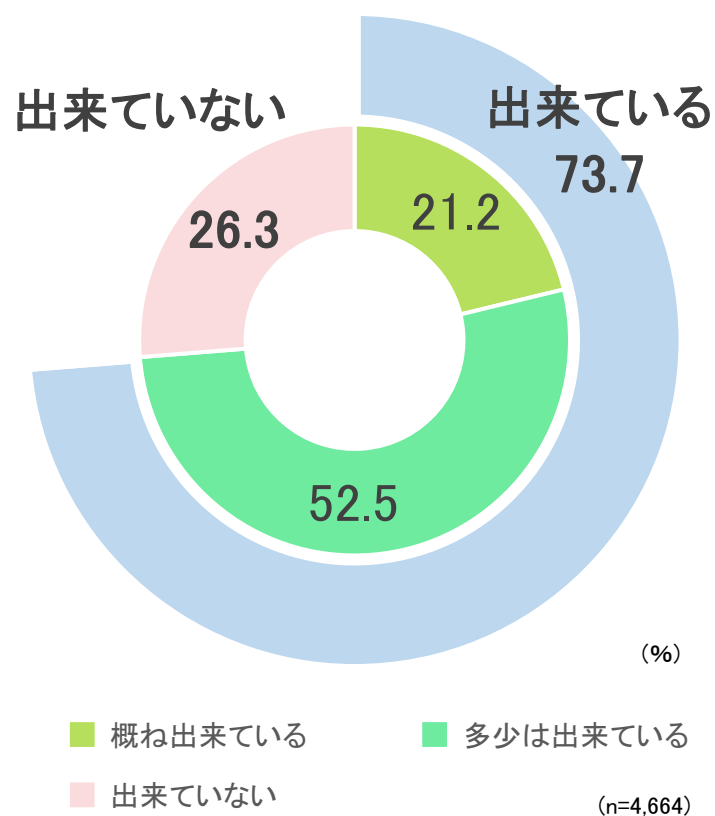
## 特別調査

経営環境において直面している課題等について

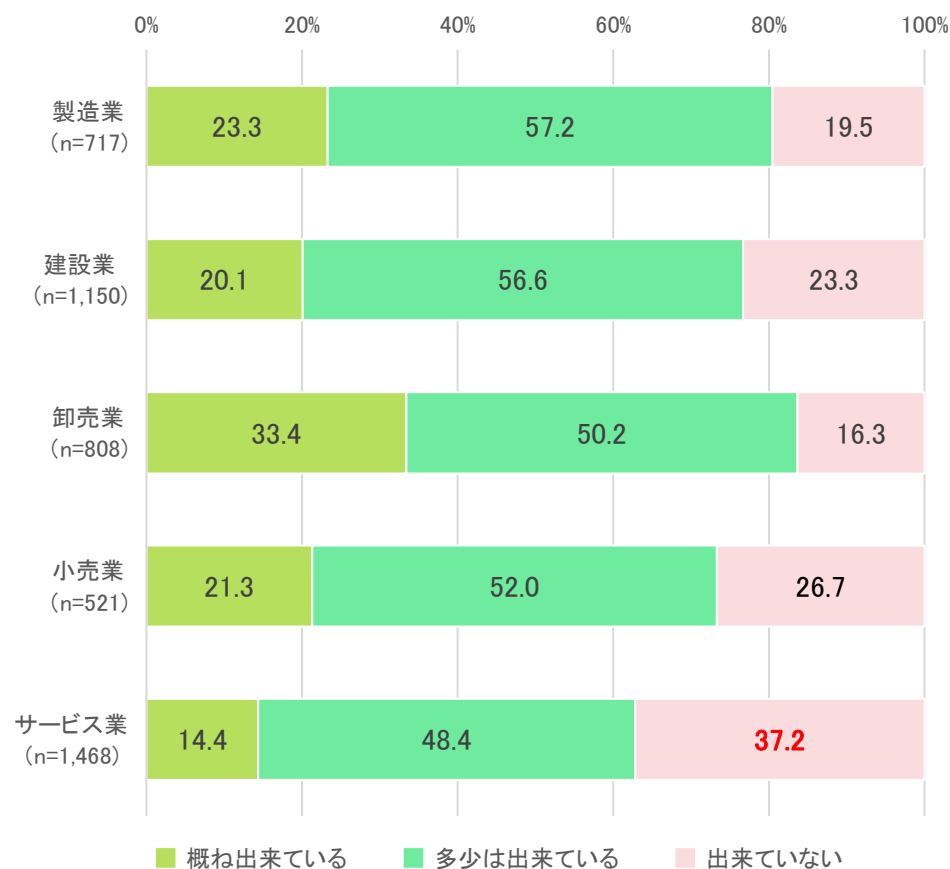
### 2. 価格転嫁の状況について

- ・価格転嫁が「出来ている」企業は、「概ね出来ている」(21.2%)と「多少は出来ている」(52.5%)をあわせ73.7%となった。一方、「出来ていない」企業は26.3%となった。
- ・業種別にみると、サービス業において「出来ていない」企業が約4割となった。

(1) 価格転嫁の状況



(2) 価格転嫁の状況【業種別】

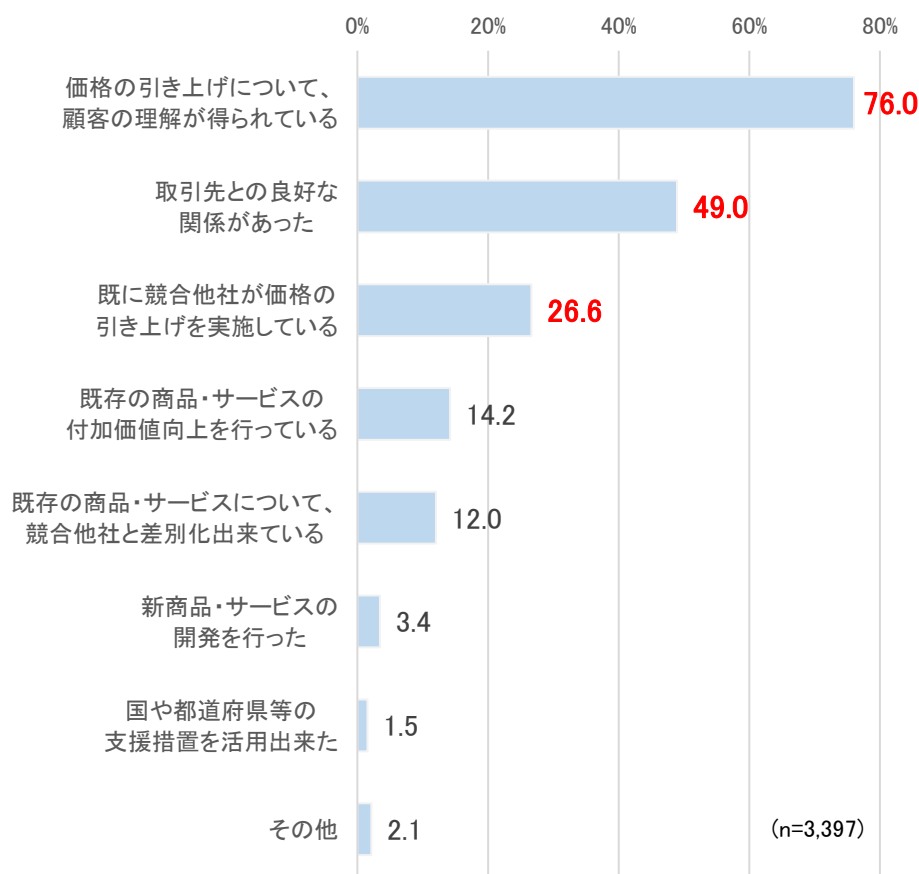


## 特別調査 経営環境において直面している課題等について

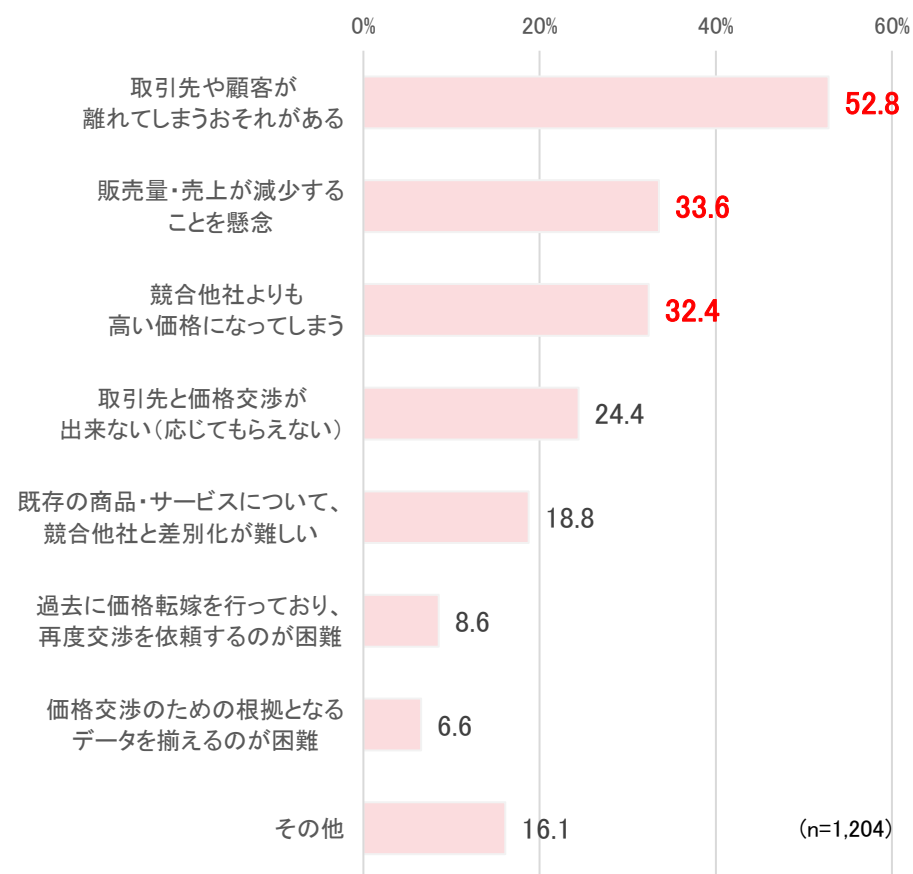
### 3. 価格転嫁が「出来ている」理由および「出来ていない」理由

- ・価格転嫁が「出来ている」理由については、「価格の引き上げについて、顧客の理解が得られている」(76.0%)が最も多く、次いで「取引先との良好な関係があった」(49.0%)、「既に競合他社が価格の引き上げを実施している」(26.6%)の順となっている。
- ・価格転嫁が「出来ていない」理由については、「取引先や顧客が離れてしまうおそれがある」(52.8%)が最も多く、次いで「販売量・売上が減少することを懸念」(33.6%)、「競合他社よりも高い価格になってしまう」(32.4%)の順となっている。

#### (1) 価格転嫁が「出来ている」理由



#### (2) 価格転嫁が「出来ていない」理由



(注)(1)、(2)は3つまで回答可のため、合計は100%を超える。